

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2024.1.31(水)



2024年も、私たちさいたま市教職員組合は、教職員のみなさんの声を大切に、さいたま市の教育の向上のためがんばります。

市内小学校校舎からの初日の出
2024.1.1

みなさん、明けましておめでとうございます。いつも、私たちさいたま市教職員組合の活動に協力していただき、ありがとうございます。今年度も私たち市教組は、市教委交渉を行いました。相変わらずのトップダウンを跳ね返すことができなかったのは残念でなりません。

まず、2学期始まって間もなく、中学校の特別支援学級の教員定数を減らし、浮いた教員を小学校に回すという話が漏れ聞こえてきました。すぐに市教委に確認し、人事交渉、賃金確定交渉の中で撤回を要求しました。

「勤務条件に関わることは組合と交渉して決めなければならぬのではなか」と詰めると「申し訳

ない」と謝り、「条件がない方にそろえるのが市教委のやるべき条件整備であり、中学の定数はそのままにして、小学校に加配をすべきではないか、少なくとも来年度は実施を見送るべきである」と迫りましたが、教育長がすでに決裁しているという理由で、新年度から実施するという事は断固として譲りませんでした。

次に、いくつかのモデル校で試行しているスクールダッシュボードを3学期から試験的に全校で実施すると決めました。

私たちは、要求書を出し交渉を重ねましたが、市教委の担当は、良い点ばかり強調し、その問題点は全く考えていない様子でした。

「少なくとも、先行実施している学校の報告を検証してから実施を判断すべきではないか」と主張しても受け入れられませ

んでした。

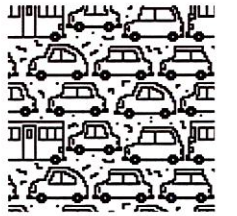
このような市教委の姿勢からみえてくるのは、現場の声を聞かない、現場の苦しさを理解していない、本当に子どもにとって何が大切かをあまり考えていないということではないでしょうか。このままでいいのでしょうか。このままでいいのでしょうか。

私たちは、3学期も引き続き交渉を行う予定です。ぜひみなさんの声をお寄せいただくとともに、これからも支援していただくようお願い申し上げます。

さいたま市教職員組合
執行委員長 大澤 博



ちよこっと旅



大宮にも「通船堀」があった！

歴教協片柳地区をワイールドワークした際に、どうやらこの地区に「通船堀」があったらしいということ、それを探そうということになりました。

「通船堀」とは、水面の高さが違う水路に船を通航する際に、水門を造って、水位を調節しながら通航する水路のことです。東浦和にある「見沼通船堀」がよく知られています。同じ様式の「パナマ運河」よりも150年前に造られており、世界に先駆けた技術ともいわれています。それを一目見ようというわけです。

* * *

「この辺りかな？」とウロウロするも、なかなか場所が特定できず、一時はあきらめかけていたところ、参加者の一人が地元のある家の人に声をかけたことで「通船堀」の痕跡をみる事ができました。その家は「中久喜」さんというお宅。

中久喜さんは、「通船堀」の管理もしていたらしく、宅内には船で運んだ物資を保管していた蔵や、堀にちなんだ小さな祠なども残っていました。しかし、「通船堀」自体は埋め立てられて、かすかな痕跡が認められる程度です。

* * *

「通船堀」を通った船が運んだ物資は、主に「柿渋」だとか。「柿渋」で思いつくのは番傘(ぼんがさ)の傘のところに塗つたもの。雨をはじく防水材料として「柿渋」がぬられていました。調べてみると、防水のために家

屋にも塗られており、水回りの柱の土台部分に塗られていたようですし、防虫効果、防腐効果もあるので結構需要があったのでしよう。その他、染料や縄灰と混ぜて外壁の塗装にも使用されたそうです。

* * *

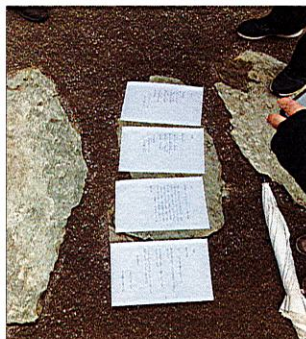
この「柿渋」を入れた瓶(かめ)を保管していた蔵も見せていただきましたが、蔵の内側に埋め込んだ柱で瓶どうしがぶつかって割れないよう工夫がされていました。

また、「通船稲荷大明神」と書かれた札が祀られている祠もありました。この祠の祭りを毎年行っているとも聞きました。その時に掲げる「幟旗(のぼりばた)」もわざわざ

わが家の中から出してきてくれました。



祠の隣には、「野村の眺望」という七言絶句が彫り込まれた「石碑」がありました。それを口訳した書類も見せていただきました。稲一面の豊作を愛でる詩です。



きっとこの辺りはそれはきれいな所だったんだろうなあ。

いやあ、これほどの史跡があったなんて、驚きです。と同時にこれが埋もれたままで知る人ぞ知る存在になってしまったことが残念でたまりません。

何故「通船堀」は埋め立てられてしまったのか。その最大の理由は、隣にできた「見沼自然公園」の入り口通路を造るためでした。幹線道路から公

園までは少し下り坂になっているのですが、その坂と直行している「通船堀」がじゃまだったのかもしれない。盛土で坂を造つたことで「通船堀」は埋め立てられてしまったのです。それ以外にも、「通船堀」が時代に合わなくなっていたということもあるのかもしれない。

「通船堀」は、その地区の物資の水運のために造られ利用されてきており、遠くは江戸に物を運ぶ重要なルートでもあったのです。しかしその後の運輸の発達は、その役割を縮小させてしまっています。最終的には廃棄される運命だったのでしよう。

しかし、歴史的には極めて貴重な遺跡なので、何とか保存することはできなかつたのでしょうか。つくづく残念です。公園

入口の通路を橋のようにすれば堀は残ったはず。そうすれば「見沼通船堀」のように、先人の工夫などを多くの人に知ってもらえたはず。行政の文化に対する不見識が悔やまれます。

【追記】

通船堀跡を見学させてくれた「中久喜」さんの祖先は「武士」だったとか。しかも、太田道灌時代の家臣だったとも言います。太田道灌は、岩槻城を造つたともいわれたので、地理的にも近いので納得したのですが、現在は築城したのは別の人物とする学説が有力らしいので、ちよこっと違っても武士の出であることは確からしい。由緒正しい親切な方でした。

